

▲南海中央線の整備状況



▲南海中央線開通式（加茂地区）



▲新村北線開通式



▲液状化対策工事が完成した高砂1号線

臨海部と内陸部を結ぶ高砂1号線は、災害時には避難路・輸送路となる重要な道路であることから、平成24年度に土質調査を行い、平成25年度から、既存道路としては全国初となる液状化対策工事に着手、平成27年2月に工事が完成した。

また、東日本大震災の教訓から、津波発生時、市東部への水平避難を原則としているが、移動が困難な方や逃げ遅れた方の緊急一時避難場所として、市は高陽幼稚園内に津波避難タワーを建設し、また

協力いただいた民間のビルを津波避難ビルとして指定するなど、津波からの避難支援を強化した。

さらには平成24年10月から、企業立地等促進条例を一部改正し、企業等が新設または増設する災害防災設備等への税の軽減を行った。この制度を活用した日鐵住金建材株式会社（当時。現在の日鐵建材株式会社）により、平成25年、高砂2丁目に津波避難タワーが建設されるなど、官民協働での災害に強い、安全・安心なまちづくりが実現をみた。



▲高陽幼稚園の敷地内に市が建設した津波避難タワー



▲高砂に建設された津波避難タワー

健幸のまちづくり



▲健康増進センターのプール



▲健康増進センターのマシジム

全国的に、医学の進歩により平均寿命が伸びる一方で、ライフスタイルの変化や交通機関の発達などによる食習慣や運動不足から生活習慣病が大幅に増加し、大きな社会問題となっていたことから、市民の健康志向も高まりを見せていた。

そこで市は、平成22年にふれあいゾーン複合センターの温水プールを婦人文化センター大会議室とあわせて「健康増進センター」として再編し、健康づくりのための運動等を行うスタジオ及びジムを整備するとともに、ふれあいゾーン複合センターの南棟の障害者福祉センターについては、同棟2階の婦人文化センター部分を含め新たに市内に点在する障害者作業所に無償貸与するほか、既存の障がい者の自立に関する事業を行い、障がい者福祉施設の拠点となる「障がい者ふれあいプラザ」として整備した。

健康増進センターの愛称は、公募により「スポラたかいし」に決定され、障がい者ふれあいプラザとともに平成22年9月よりリニューアルオープンすることとなった。

この再編を皮切りに、市の健康増進施策はさらに充実されていった。



▲健幸づくり教室

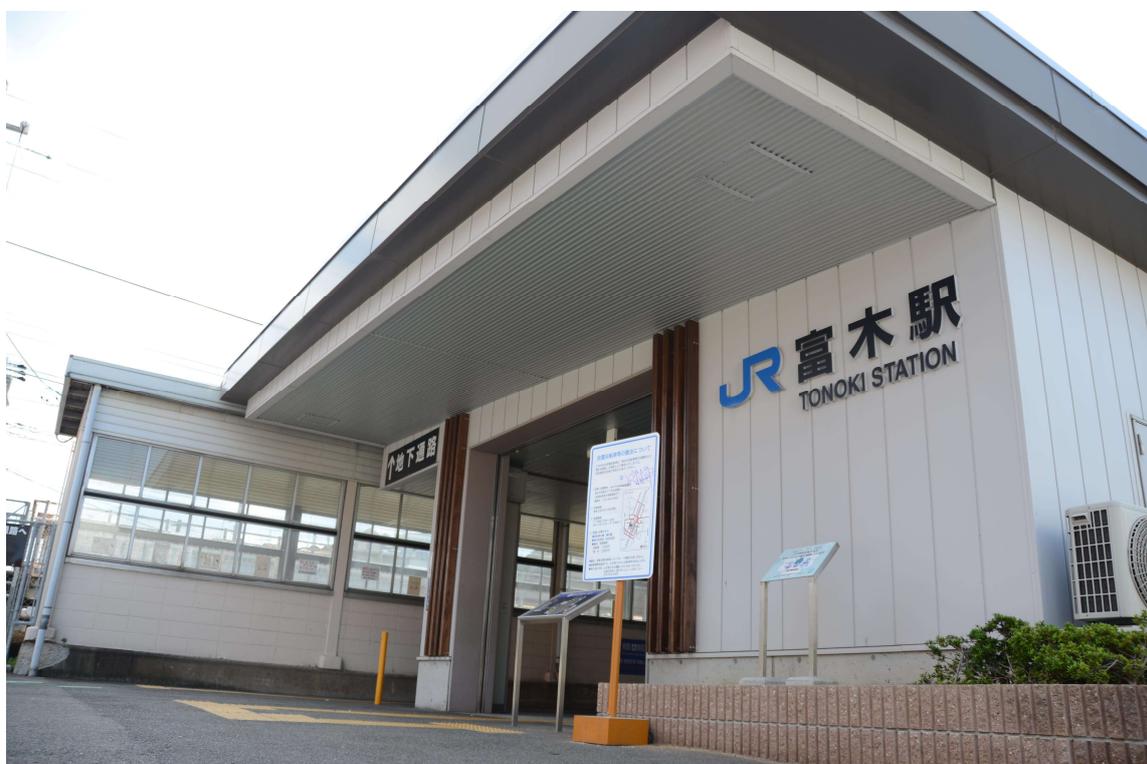
市は、誰もが健康で長寿になれるまち、つまりそこで生活すること自体が健康と幸福につながる“健幸”のまち（スマートウェルネスシティ）をめざし、医療費等の社会保障費の適正化を図る健康増進事業の取り組みを次々に開始した。

まず、平成24年3月から、科学的根拠に基づく個人別プログラムが用意された、健幸

づくり教室を開催した。さらに、平成26年12月から平成28年12月まで、日常の歩数などの健康づくりへの努力に対して、商品券などに換金できるポイントを付与する健幸ポイント事業を実施した。この制度は、健幸ポイントを付与して健康無関心層に対し健康増進事業への参加を促す、国の総合特区制度を活用した実証実験で、募集定員を超える応募があり、市民の人気を博した。

ほかにも、市の平坦な地勢を活かし、市民の誰もが市内を安全に行き来でき、歩きたくなるようなウォーキングロードとしても利用できるよう、先に述べたように南海中央線、新村北線や芦田川ふるさと広場が整備された。これにより、平成25年から芦田川ふるさと広場に自主的に市民が集まり、グループでウォーキングに取り組む「毎日が“元気”健幸ウォーキング」が始まった。その後も健幸広場（保健センター前）、鴨公園、とろしプラザ前、瑞松苑など次第に拡大されていき、市民の健康づくりの定着が図られた。

駅周辺の活性化・利便性の向上



▲新しくできた富木駅西側駅舎

JR阪和線の富木北踏切は、道幅が狭く交通量が多いため、安全対策が求められていた。また、踏切の遮断時間が長いことや、富木駅の西側改札の利用時間が午前7時から9時までに限定されており、利便性の向上が課題となっていた。

駅周辺の自治会からも、踏切の拡幅、駅構内地下道の利用、西側改札口の終日開放、駅舎を含めた周辺環境の整備がJR西日本大阪支社に対して要望がなされていた。

市は地元の要望を踏まえ、JR西日本大阪支社と協議を重ねた結果、平成22年11月から富木駅のバリアフリー化及び駅構内の地下道の自由通路化工事を行う運びとなった。

平成23年5月に完成したこの工事により、スロープの設置などバリアフリー化をはじめ、終日駅西側からも列車に乗降することができるようになり、また駅構内の地下道の自由通路化が実現し、踏切通行者の利便性が向上した。



▲羽衣駅前地区第一種市街地再開発事業 完成イメージ

さて、羽衣駅前の再開発事業について、平成8年に都市計画決定がなされたが、権利者の合意形成が進まず、組合設立には至らなかったことは先に述べた。

その後、平成19年に市の事業評価監視委員会より南海本線・高師浜線（高石市）連続立体交差事業が進捗していることから、高架下利用を含めた交通結節点としての公共施設の整備など都市機能の集積に努めるよう提言がなされたことをきっかけに、事業の内容が見直され、再開発に向けて動き出した。

見直し後の計画内容は、南海本線羽衣駅から再開発ビル（商業施設・子育て支援センター・住宅の複合施設）を經由し、JR阪和線東羽衣駅に接続する連絡デッキを整備し、また南海本線の高架化にあわせ駅の西側には駅前交通広場を、東側には人が集える環境空間として駅前広場を整備し、羽衣駅前線横断の安全性の確保、駅利用者の利便性の向上、賑わいの創出を図るものであった。

平成21年5月に羽衣駅西側の交通広場を含めた駅前広場を整備する都市計画変更を行い、地区の名称も「羽衣駅前東地区」から「羽衣駅前地区」と改め、再スタートがきられた。

その後、平成24年4月に本組合が設立され、事業が進められることとなり、平成29年の本体工事着工、令和元年8月の竣工が予定されている。

地域の活性化



▲平成24年8月5日に開催された「高石楽市楽座 羽衣七夕まつり」において、市のブランドイメージ羽衣天女を発表

こころはごろも



▲羽衣の松からインスピレーションを受けて天女の姿を詠んだ歌の創造性・想像する心をハートの形に込めてデザインされた



▲シーサイドフェスティバルの花火

平成24年4月、高石ブランドの確立、イメージアップをはじめ、市のプロモーション、まちの活性化、観光施策、内陸と臨海を結ぶ地域や南海本線高師浜線の活性化など、さまざまな取り組みにより魅力あるまちづくりを進めるため、市は新たにブランド戦略室を設置した。

同室では、まず乗客の減少が続いている南海高師浜線の活性化と、羽衣駅・東羽衣駅の再開発などの活性化策に取り組むため、市のブランドイメージを下の通り羽衣天女に決定した。

天女の住まう街



▲高級避暑地として発展してきた歴史を今に引き継ぐ、暮らしやすい上質なライフスタイルを、天女のエレガントな姿に託した



▲ドラゴンボート大会

このほかブランド戦略室で行われた主な事業として、シーサイドフェスティバルの開催がある。昭和51年、高石まつりが市制施行10周年記念事業の一環として誕生し、翌年に地域団体や市民の熱意により、実行委員会が立ち上げられ、平成15年度まで盛大に開催されていた。同室は、この高石まつりを、高石まつり実行委員会（平成24年11月に解散）及びシーサイドフェスティバル実行委員会と連携し、浜寺水路を活用した高石シーサイドフェスティバルとして再編・実施する支援を行った。

そして平成25年5月、高石シーサイドフェスティバルは、商工会議所主催の堺泉北港ドラゴンボート大会と同日に開催され、昼間はジャズやタップダンスなど様々な催しが、夜には花火の打上げが行われる盛大なイベントとなった。その後も毎年開催され、大阪の夏で一番早い花火大会として、多くの方が来場する、高石の一大イベントとなっている。



▲臨海工業地帯の夜景



▲工場夜景ツアーの様子



▲工場夜景ラッピング電車



その後、ブランド戦略室は平成25年4月に地域活力創出課に、平成28年4月には企画課と統合され総合政策課となったが、引き続きシーサイドフェスティバル以外にも、ブランドイメージ「羽衣天女」を活用したご当地ナンバープレートの導入やグッズ販売を行うとともに、他自治体との連携も行った。天女伝説は全国各地にあり、それぞれの地域で天女を活用したまちづくりが行われていることから、平成26年11月、そのような自治体の首長が集い、相互の交流や連携による振興を図る「天女サミット」に参加し、また平成28年10月24日、高石市で開催された第2回天女サミットでは、同日が「10（テン）24（によ）」と読めることから、「天女の日」として日本記念日協会へ登録するなど、積極的にPRを行った。

さらに、ソーシャルネットワーキングサービスを利用した市の魅力発信など、高石市のプロモーション、賑わいづくりも進めた。その施策の一つとして臨海工業地帯の夜景のPRがある。この頃工場群の夜間照明やパイプ、タンク等が作り出す重厚感、機能美の人气が高まっていたことから、かつては公害の象徴とされた臨海工業地帯の夜景を観光資源として活用したのである。平成26年5月に商工会議所と連携して工場夜景ツアーを開催し、また平成28年10月から南海電鉄の協力を得て「走る！工場夜景」ラッピング列車の走行（高師浜線）を実現させた。

これらの取り組みは人気を博し、その後も商工会議所主催でツアーが定期的で開催されるようになり、またラッピング列車も走行期間が延長されることとなった。

7. これからの高石市

ここまで駆け足ではあるが、昭和41年から平成28年の50年の高石市の歩みをたどってきた。

臨海工業地帯の造成に伴う公害問題、高度経済成長期における市域の発展やバブル崩壊後の財政の立て直しなど、様々な出来事があったが、中でも平成の大合併の時流に際し、平成15年4月の住民投票による単独市制継続の選択は市にとって大きな転機であった。

当時、住民に身近な行政は地方公共団体が自主的かつ総合的に広く担うとともに、住民が地方行政に参画し協働していくことをめざす「地方分権」が国で押し進められており、市町村の規模・能力の充実、行財政基盤の強化が必要であったことから、全国で市町村合併に向けて検討がなされていた。

このとき市民自らが堺市との合併に反対し単独市制の継続を望んだことは、地域の課題に対し、市民ぐるみで知恵を絞り、限られた資源を活用して課題解決を図っていく宣言であった。

今後、市税収入の大幅な増加は期待できない一方で、人口減少・少子高齢化はさらに進み、医療や保険、介護など社会保障関係費が増加していくことが予想される。全ての自治体が直面している問題であり、本市も例外ではなく、非常に厳しい状況ではあるが、これまでもまちの安全・安心を支える防災対策や行財政改革等の様々な課題を、市民とともに乗り越えてきた。これをなし得たのは、人の顔が見え、思いやり助け合うことができるというコンパクトな都市の利点を活かしたまちづくりを進めてきたからであろう。

市民ぐるみで、住みやすい、住んでよかったと思えるまちをつくる—それこそが、高石の将来の飛躍発展につながると確信する。



8. 年表（昭和41年から平成28年まで）

昭和41年（1966）	
5月	泉大津市・和泉市・高石町で泉北環境整備施設組合設立
7月	高石町スポーツ少年団結成
10月	市庁舎に大気汚染自動測定機を設置
11月	市制施行（面積8.99㎢）
12月	羽衣保育所開設
昭和42年（1967）	
1月	市章制定
2月	初代市長中山末吉氏の公葬
	浅野政雄市長初当選
3月	泉北一区埋立地の境界について堺市と合意
4月	清高小学校開校
	高石市立幼稚園羽衣分園、同東分園、同南分園が独立し、それぞれ羽衣幼稚園、清高幼稚園、高陽幼稚園と名称決定された。本園の高石市立幼稚園は高石市立高石幼稚園と名称変更された
6月	高石駅前商店街で大火事
	泉北用水組合（泉大津市、和泉市、高石市）の上水道設備が信太山に完成
7月	市政モニター制度がスタート
	高砂・羽衣公園丁の編入で市の面積が10.11㎢になる
8月	高石大橋が完成（市内と臨海工業地を結ぶ長さ99m、幅25m）
9月	高師浜丁を編入し市の面積が10.32㎢になる
	敬老年金制度創設
11月	市制施行1周年を記念して鴨公園建設に着手
昭和43年（1968）	
1月	第1回市民マラソン大会
3月	王子川交差点歩道橋が完成
4月	ちびっ子広場第1号が高師浜3丁目に誕生
	南海毛糸紡績株式会社内に南海愛児園、南海保育専門学校（現在の南海福祉専門学校）が開設される
	取石保育所、東幼稚園を開設
5月	市民交通災害保険制度を開始
7月	ごみ収集夏期（7～9月）週2回に
8月	公営葬儀を開始
9月	市道の舗装率府内最高の41%に
10月	公害対策協議会発足
昭和44年（1969）	
1月	東幼稚園新園舎完成。仮園舎としていた富木会館などから移転
3月	大気汚染防止法のばい煙排出規制の一番厳しいA地区に指定される
	高石駅橋上化完成

	北幼稚園開園
	公害交通対策課を新設
4月	府道臨海線（高石大橋～松之浜）が開通
	泉北1区臨海工業地帯の水路を利用した府立漕艇センターが完成
	高石市体育協会設立
5月	初の歩行者専用道路が泉州ストア前に完成
	高石浄水場3号配水池完成
6月	市道高石臨港線開通（国道26号と府道臨海道路を結ぶ延長276m、幅員22m）
7月	ごみ収集（7～12月）週2回に
10月	鴨公園完成
12月	公害モニター制度発足
昭和45年（1970）	
2月	大阪石油化学フレアスタックから轟音とともに炎発生
3月	高師浜線の高架化が完成
4月	80歳以上の老人医療費無料
	高石消防署が高師浜に開設
6月	泉北1区追加埋立地への公害企業誘致反対を市議会が可決
	6万人目の市民誕生
	市長・議会・連合自治会が公害企業進出反対を府に陳情
7月	初の50m プールとなる鴨公園プールがオープン
	府内で初の自動車の鉛公害調査を実施
8月	府内で初の公害防止協定を締結
	綾園保育所開所
9月	公害防止協定に基づく公害防止協議会の初会合開催
	大阪府が堺・泉北臨海工業地帯泉北一区埋立地を大阪ガスなど4社に分譲することを決定
	公害企業進出反対に市長・市議が府庁ですわりこみ
10月	公害交通課から公害課が独立し、公害対策を強化
11月	市道の舗装率62%に
昭和46年（1971）	
2月	浅野市長再選
4月	大気汚染監視センターを市庁舎内に開設し測定局の情報の集中管理を開始
5月	堺高石消防本部救急車のサイレン音が「ウー」から「ピーポー」に変更
	中央公民館北分館完成
7月	留守家庭児童学級を開設
8月	高石中学校・羽衣学園で初の光化学スモッグの被害者発生
10月	浜寺交通遊園にデゴイチ（D51）が寄贈された
	北分館結婚式場で第1号カップル誕生
11月	70歳以上の老人医療費を無料化
	粗大ごみ収集月2回実施

	市民憲章・市の木・市の花・市歌制定
12月	かん、びんの分別回収を開始
昭和47年（1972）	
1月	堺・泉北海員会館が千代田に完成
2月	47日間で死亡者が昨年と同数となり交通事故非常事態宣言
4月	老人医療費無料化を65歳以上に拡充
	大気汚染街頭表示盤を羽衣、高石、富木駅前に設置
	加茂小学校開校
	高師浜野球場・運動場を開設
5月	交通安全都市を宣言
6月	広報無線を導入し光化学スモッグ放送を開始
7月	ごみ収集を夏季（7～9月）及び12月は週3回収集へ。週3回収集は府内で初めて
	泉北1区埋立地の堺市との境界について訴えを大阪地方裁判所に提出
	府立臨海スポーツセンター開設
	市民音楽団結成
8月	南プール開設
	第1回交通安全市民決起大会開催
	芦田川ポンプ場完成
10月	高石下水終末処理場供用開始
	関西空港設置に関するテストフライト騒音測定
昭和48年（1973）	
3月	高石浄水場1号配水池完成
4月	0歳児の医療費無料化実施
	加茂保育所・加茂幼稚園・取石中学校開設
	東幼稚園が取石幼稚園に名称変更
	浜寺運河沿いに自転車道・歩行者道が完成
5月	高石市土地開発公社を設立
6月	老人福祉センター「瑞松苑」開設
7月	高師浜に市民会館開設、中央公民館が市民会館内に移転
8月	府立青少年センターが羽衣に完成
	羽衣線（東羽衣駅）が高架化し供用開始
10月	大園遺跡に大園古墳が発見される
12月	オイルショックにより灯油を緊急放出
	羽衣幼稚園新園舎が羽衣小学校敷地内に完成。校舎内にあった幼稚園から移転
	老人福祉センターのマイクロバス定期運行開始
昭和49年（1974）	
4月	瑞松苑の隣に福祉団体活動センター開設
7月	羽衣プールがリニューアルオープン
9月	市開発指導要綱施行

11月	企業に無過失賠償責任などをもちこんだ新公害防止協定に改正
12月	新公園開設
昭和50年（1975）	
2月	浅野市長3選
4月	富木会館を取り壊し富木公民館開設
5月	松の実園開設
7月	取石プール開設
8月	高潮により王子川が溢水し、千代田地区を中心に浸水被害が発生
9月	高師浜から羽衣に高石警察署が移転
12月	国道26号（第二阪和国道）一部開通（堺～高石7.2km）
昭和51年（1976）	
1月	市公害対策審議会から「公害病認定地域の指定申請、現時点では最善の策でない」と答申を受ける
6月	高石駅東側D地区市街地再開発組合設立が認可される 泉北1-2区埋立地境界問題で府議会議長から調停案を示され、市はこれを「了」とした
10月	加茂に市役所新庁舎が完成し、高師浜から移転、開庁。千代田、高師浜、羽衣、取石に市民課分室開設。取石出張所を廃止
11月	市制施行10周年 全保育所で0歳児保育を実施
昭和52年（1977）	
4月	泉北1-2区埋立地が市域に加わり、市の面積が11.25㎢になる
	老人福祉農園開設
	南海毛糸紡績会社の跡地に府立高石高校開校
	暴力団員が市議会に押しかける
5月	王子川ポンプ場第1期工事完成
10月	第1回高石まつり開催
11月	市民文化協会発足 暴力排除宣言都市のPR塔を設置
12月	千代田排水ポンプ場が完成
昭和53年（1978）	
2月	羽衣駅橋上化完成
3月	総合計画基本構想答申
4月	東羽衣保育所開設 東羽衣高架下集会所開設
5月	市民農園開設
7月	羽衣駅西側広場の整備事業完成・時計台設置 旧高石警察署の跡地に公害監視センター完成。センター内に市民課高師浜分室を移転
9月	市保健センター開設。2階には泉大津保健所高石分室が開設される
10月	公害監視センター稼働 高石消防署取石出張所竣工

11月	高師浜運動場内にテニスコートがオープン
12月	高石駅東D地区市街地再開発事業全工事完了
昭和54年（1979）	
2月	浅野市長4選
3月	芦田川に桜を植樹
4月	羽衣保育所新園舎が安宅産業社宅跡地に完成し移転
	中央公民館（現在の千代田公民館）をリニューアル、西取石会館を開設
6月	高石駅東D地区市街地再開発ビルに西友ストアがオープン
	ねたきり老人見舞金支給制度創設
10月	高砂公園開設
	防災行政無線移動系稼働
11月	旧庁舎跡地への体育館等の建設が決定し、商工会事務所が旧庁舎から高石医師会館へ移転
昭和55年（1980）	
1月	市初の土地区画整理事業が完了
4月	粗大ごみ処理場稼働
	総合計画基本計画答申
6月	綾園に商工会館が完成し、商工会事務所が高石医師会館から移転
8月	母子家庭の医療費無料化
9月	難病患者等見舞金支給制度創設
10月	大園公園開設
11月	第1回高石市農業まつり開催
昭和56年（1981）	
1月	羽衣ゴルフセンターの跡地にジョギング広場を開設
3月	新公園テニスコート開設
	青少年健全育成推進会発足
	防災行政無線固定系開局
4月	私立取石南保育園が開園
	旧庁舎跡に体育館・勤労者体育センター・わかば園開設
	東羽衣会館開設
6月	高師浜に図書館開設
	青少年健全育成市民大会開催
8月	姉妹都市協会設立
	野外活動センター・キャンプ場開設
9月	東羽衣公民館開設
10月	ロミタ市と姉妹都市協定締結
昭和57年（1982）	
3月	関西国際空港の実機飛行調査始まる
4月	自動車文庫スタート
5月	高師浜運動施設にナイター設備完成

	高砂野球場オープン
8月	台風10号と低気圧による豪雨で大きな浸水被害
10月	障害者給付金支給制度創設
	高砂に大阪ガスのガス科学館が開設
12月	高石駅東B地区市街地再開発準備組合発足
昭和58年（1983）	
2月	浅野市長5選
	市営富木南住宅完成
4月	商工会が商工会議所に昇格
9月	土生会館開設
10月	青少年に帰宅を呼びかける無線放送開始
昭和59年（1984）	
3月	市民課分室（千代田、高師浜、羽衣、取石）を廃止
4月	市シルバー人材センター発足
5月	老人福祉センター菊寿苑開設
9月	非核平和都市を宣言
10月	市営富木住宅完成
	第1回商工フェスティバル開催
昭和60年（1985）	
1月	自転車問題対策協議会発足
4月	羽衣ポンプ場完成
7月	高石浄水場配水塔、高石浄水場6号配水池完成
9月	高石駅東B地区市街地再開発事業が都市計画決定される
昭和61年（1986）	
4月	清高公民館オープン
7月	高石っ子憲章制定
11月	市制施行20周年
昭和62年（1987）	
2月	浅野市長6選
3月	浜寺郵便局が羽衣1丁目から羽衣2丁目へ移転
4月	ふれあいゾーン複合センターオープン、送迎バス（ふれあい号）運行開始
	羽衣・高陽・取石・加茂の幼稚園で2年保育を試行
9月	高石配水場中央管理棟完成
昭和63年（1988）	
3月	大雄寺の旧石碑を伽羅橋公園内へ移設
4月	芦田川の改修工事に伴い伽羅橋を高砂公園に移設
	自転車等の放置防止に関する条例施行により高石・羽衣・富木の3駅前を自転車・ミニバイクの放置禁止区域に指定
10月	国土地理院の測量結果に基づき市の面積が11.25㎢から11.15㎢になる

	堺泉北有料道路の高石市取石から綾園までの区間0.8kmが完成
平成元年（1989）	
4月	幼稚園全園で2年保育を本格実施
	教育研究センター開設
	加茂公民館開設
6月	北助松駅周辺を自転車・ミニバイクの放置禁止区域に指定
	中央公民館北分館の結婚式場を廃止
8月	鴨公園運動広場にナイター設備完成
10月	堺・高石消防本部の新庁舎（堺市大浜南町3丁）が完成し、一部事務を移転
平成2年（1990）	
3月	高師浜テニスコートがアンツーカーコートから砂入り人工芝コートに
4月	保育所の保育時間の延長（早朝・夕方を各30分延長し7時30分～18時30分に）
	中小企業退職金共済掛金の補助制度がスタート
	高師浜・伽羅橋駅周辺を自転車・ミニバイクの放置禁止区域に指定し、市内全駅周辺が放置禁止区域に
5月	高師浜テニスコートのクラブハウスを改築し、トイレ・シャワー付更衣室を整備
	第2次総合計画基本構想議決
8月	国際花と緑の博覧会で「高石の日」を開催
9月	瑞松苑在宅老人デイサービスセンターがオープン
10月	国や府に合わせ第2・第4土曜閉庁。平日の業務時間が9時から17時15分までに
	第2次総合計画基本計画答申
11月	泉大津保健所高石分室が高石支所に
平成3年（1991）	
2月	寺田為三市長が初当選
3月	堺泉北有料道路が開通
	高師浜駅前広場が完成
5月	敬老年金の名称を長寿祝金に改める
	取石公園が開園
6月	0歳児の医療費助成の居住要件を廃止
	高石市勤労者福祉互助会設立
	障害者医療費助成の対象者を拡大
平成4年（1992）	
3月	障害者福祉センターにリフトバスを配備
4月	0～1歳児の通院・入院に係る医療費を助成
	新婚世帯への家賃補助制度創設
	65歳以上の高齢者に入院見舞金を支給
	古紙など、集団回収団体に奨励金
5月	泉北6区の市域を南高砂とする。市の面積11,19km ²
6月	パンセ羽衣（慶翠苑・羽衣公民館・府バスターミナル）開設

7月	野外活動センター管理棟を建て替え、キャンプ場を整備
8月	交通安全市民決起大会を交通安全フェスティバルに名称変更
9月	第2土曜日を休みとする学校週5日制を実施
11月	南高砂に新たに生じた土地を編入。市の面積11.33km ²
平成5年（1993）	
4月	土曜日閉庁実施
	水道料金の福祉減免制度を創設
	各種ガン検診を無料化
	下水道高師浜中継ポンプ場完成
5月	高石青年会議所20周年記念事業たかいしシーサイドフェスティバル開催
6月	綾園集会所開設
9月	高石駅西地区市街地再開発工事が完了
10月	入院医療費助成を「就学前まで」に拡大
平成6年（1994）	
2月	第1回泉州国際市民マラソン大会開催
5月	泉北6区南高砂を編入（市の面積11.33km ² ）
6月	側川キャンプ場廃止
7月	ふるさと村キャンプ場オープン
	和歌山県清水町（現 有田川町）と友好都市提携調印
8月	コミュニティセンター（デージードーム）開設
9月	関西国際空港開港
10月	市庁舎別館が完成し業務開始。1階に泉大津保健所高石支所が移設される
平成7年（1995）	
1月	通院医療費助成の対象を「3歳未満まで」に拡大
	阪神淡路大震災発生、被災地への支援を実施
2月	寺田市長再選
3月	高石配水場7号配水池完成
4月	第2・4土曜日を休みとする学校週5日制を実施
6月	羽衣駅東地区市街地再開発準備組合設立
11月	セアカゴケグモ対策本部を設置
	泉北6区南高砂を編入し市の面積が11.36km ² になる
平成8年（1996）	
4月	福祉都市を宣言
	スポーツ施設情報システム（オーパスシステム）スタート
	西取石の取石出張所が増築され、高石消防署に名称変更。これに伴い高師浜の高石消防署は高師浜出張所と名称変更
5月	高師浜運動広場を人工芝に改修するとともに観客席を設置しリニューアル
6月	泉北6区コンテナターミナルが供用開始
10月	国土地理院の測量の結果により、市面積が11.35km ² となる

11月	市制施行30周年。記念式典で中山末吉、浅野政雄、葉室鐵夫の三氏が名誉市民に
12月	南海本線・高師浜線（高石市）連続立体交差事業、羽衣駅前地区第一種市街地再開発事業が都市計画決定される
平成9年（1997）	
5月	泉北環境整備施設組合のごみ処理の余熱を利用した温水プール、サン燦プールが和泉市にオープン
7月	神戸連続児童殺傷事件を受けて「高石っ子をまもるおうち」を設置
9月	なみはや国体の夏季大会で漕艇競技を開催
10月	ペットボトルの分別回収を開始
	府立羽衣青少年センター、大阪国際ユースホテル開設
	なみはや国体の秋季大会でハンドボール・キックベースボール（デモスポ）競技を開催
平成10年（1998）	
2月	関西国際空港新飛行ルート案の実機飛行調査始まる
	高石市行財政改革大綱を策定
3月	鴨公園にせせらぎ水路完成
	市営富木第二住宅完成
10月	新公園運動広場を芝生グラウンドに改修しリニューアルオープン
平成11年（1999）	
3月	南海本線高石駅にエレベーターが設置される
4月	総合保健センター、老人保健施設「きやらの郷」が完成し、業務開始
	新婚世帯への家賃補助制度に5年の定住義務
	新公園テニスコートがリニューアル。2面から3面になり、人工芝に。
	寺田市長3選
7月	加茂公民館が中央公民館、それまでの中央公民館が千代田公民館、中央公民館北分館が高師浜公民館に名称変更
	中央公民館南分館が地元自治会管理となる
10月	複合コミュニティセンター「とろしプラザ」開設。センター内に取石公民館を開設
	富木公民館が地元自治会管理となる
11月	市営浜墓地完成
平成12年（2000）	
1月	老人医療費助成に所得制限を導入
4月	南海中央線（綾園地区）が供用開始
	泉大津保健所高石支所が高石府民健康プラザに改称
5月	第3次総合計画基本構想議決
8月	行財政改革実施計画を策定
平成13年（2001）	
1月	第3次総合計画基本計画答申
3月	芦田川ふるさと広場南側完成
4月	高石市ホームページ開設
	情報公開制度がスタート

5月	広報たかいしのサイズがB4からA4に
7月	市外局番の「0722」、「0723」の末尾が市内局番の先頭になる
10月	白色トレーの分別収集を開始
平成14年（2002）	
3月	芦田川ふるさと広場北側完成
4月	完全学校週5日制を実施
	東羽衣保育所を民営化。東羽衣保育園に 堺市・高石市合併問題研究協議会が発足
5月	泉州二十一世紀協議会により浜寺公園に日露友好之像が建立された
11月	合併問題に関する住民説明会が始まる
12月	川淵三郎氏が名誉市民に
平成15年（2003）	
2月	自動車文庫廃止
	高石駅東B地区再開発ビル「アプラたかいし」が完成し商業施設がオープン
3月	アプラたかいし3階に市民文化会館等、4階に図書館を開設。旧図書館は郷土資料室に
4月	診療センター、母子健康センターが完成し、業務開始
	清高幼稚園を民営化
	新婚世帯への家賃補助制度を休止
	堺市との合併を問う住民投票は「合併に反対」が多数を占める 阪口伸六市長が初当選
12月	第一次高石市財政健全化計画案を策定
平成16年（2004）	
3月	泉北環境整備施設組合泉北クリーンセンター完成
4月	水道料金の福祉減免制度を休止
	高齢者への入院見舞金支給制度、ねたきり老人見舞金支給制度を廃止
	各種ガン検診を有料化 高石府民健康プラザが和泉保健所に統合される
6月	土生会館を廃止
8月	道路・公園等の管理にアダプト・プログラムを導入
10月	第二次財政健全化計画案を策定
11月	通院にかかる医療費助成の対象を「3歳未満まで」から「4歳未満まで」に拡充
平成17年（2005）	
2月	阪口市長再選
11月	教育委員会に青色防犯パトロール隊が発足
平成18年（2006）	
2月	第三次高石市財政健全化計画案を策定
	高石市消防団発足
4月	南高砂に多目的国際ターミナルが完成
	泉州北部小児初期救急広域センターが岸和田に開設される

	青少年センターを廃止
	公害監視センター内の大気汚染観測局を高石消防署高師浜出張所に移転。公害監視センターを廃止
11月	市制施行40周年
	和歌山県有田川町と友好都市交流提携調印
平成19年(2007)	
1月	ごみ排出袋の透明・半透明化、粗大ごみの有料化
	ごみ収集を年間週2回に
4月	それまでの一方通行循環ではなく相互通行循環方式を採用し、福祉バス2台体制で運行を開始
	阪口市長3選
6月	高石市企業立地等促進条例を制定
8月	高石市学校教育施設耐震化計画を策定
平成20年(2008)	
2月	第四次高石市財政健全化計画案を策定
4月	市役所の開庁時間を「9時から17時15分まで」から「9時から17時30分まで」に
8月	第2次高石市学校教育施設耐震化計画を策定
9月	堺市高石市消防組合の解散
10月	高砂公園運動広場を廃止
平成21年(2009)	
1月	高砂公園野球場を廃止
	郷土資料室をアプラたかいし4階の図書館内に移転
	長寿祝金制度を廃止
4月	高石保育所を民営化。高石保育園に
	高砂公園内に高砂公園野球場、運動広場を開設
	取石プールを廃止し、羽衣プールを羽衣小学校に移管
6月	たかいしスクールニューディール・第3次高石市学校教育施設耐震化計画を策定
8月	公の施設のあり方検討結果案を策定
平成22年(2010)	
4月	難病患者等見舞金支給制度及び障害者給付金支給制度廃止
9月	ふれあいゾーン複合センターにふれあい健康増進センターを設置
	第4次総合計画基本構想議決
11月	第4次総合計画基本計画答申
平成23年(2011)	
3月	東日本大震災が発生、被災地への支援を実施
	学校施設耐震化100%達成
4月	取石幼稚園・取石保育所を統合し民営化のうえ、認定こども園化し、取石認定こども園に
	高師浜公民館廃止
	阪口市長4選
5月	JR富木駅西側駅舎の完成

7月	石油基地自治体協議会加盟の56市1町と災害時応援協定を締結
8月	第五次高石市財政健全化計画案を策定
平成24年（2012）	
1月	二・三世代の同居や近居のため新設される住宅の固定資産税を軽減する制度がスタート
	地震津波総合避難訓練を初めて実施
3月	健幸づくり教室がスタート
4月	通院にかかる医療費助成の対象を「4歳未満まで」から「就学前まで」に拡充。入院にかかる医療費助成の対象を「就学前まで」から「小学校卒業まで」に拡充
	高石市企業立地等促進条例を改正し、対象や支援内容を拡充
8月	高南中学校で給食を導入
	市のブランドイメージ羽衣天女を発表
9月	高師浜駅・伽羅橋駅で無料レンタサイクルを開始
10月	高石市企業立地等促進条例を改正し、災害対策設備などへの減税制度を創設
平成25年（2013）	
1月	火災や津波等の災害に強い住宅を建設または購入する際、固定資産税を軽減する制度がスタート
2月	市、商工会議所及び株式会社池田泉州銀行が産業振興連携協力に関する協定を締結
3月	日鐵住金建材株式会社（当時。現在の日鉄建材株式会社）により高砂に津波避難タワーが建設される
4月	泉北地域4市1町の図書館で相互利用サービスを開始
	高石幼稚園を廃止
	加茂保育所を民営化。加茂保育園に
	一部従量制による普通（可燃）ごみの有料化を実施
5月	堺泉北港ドラゴンボート大会と合わせ第1回高石シーサイドフェスティバルを開催
7月	南海中央線（加茂地区）が供用開始
8月	高石中学校、取石中学校で給食を導入
9月	高陽幼稚園敷地内に津波避難タワーを整備
	ご当地ナンバープレートの交付スタート
10月	準防火地域の指定を拡大
平成26年（2014）	
3月	高師浜運動広場、高師浜テニスコートの人工芝を張り替えリニューアルオープン
	高石市PR大使にお笑いコンビ ロザンの菅ちゃんが就任
4月	羽衣幼稚園を廃止
	羽衣保育所を民営化。羽衣保育園に
	高師浜野球場のグラウンドを整備し、新公園テニスコートの人工芝を張り替えリニューアルオープン。高師浜野球場駐車場及び新公園駐車場を有料化
	高石市内にある泉北環境整備施設組合の下水道施設が市に移管される。高石処理場は大阪府の下水処理場へ圧送する「高石ポンプ場」に役割変更
5月	高石商工会議所が初めて工場夜景ツアーを開催
7月	通院にかかる医療費助成の対象を「就学前まで」から「小学3年生まで」に拡充。入院にかか

	る医療費助成の対象を「小学校卒業まで」から「中学校卒業まで」に拡充
8月	市民農園、福祉農園を一体化し、健幸コミュニティ農園を開設
11月	第1回健幸フェスティバル&高石マルシェを開催
	第1回天女サミットに参加、天女サミット共同宣言を実施
12月	健幸ポイントプロジェクト実施
平成27年(2015)	
2月	既存道路では全国初となる高砂1号線の液状化対策工事が完成
3月	新村北線全線開通
4月	総合体育館「カモンたかいし」オープン
	私立浜寺幼稚園・清高幼稚園・東羽衣保育園・南海愛児園・高石保育園・取石南保育園が認定こども園化
	市庁舎駐車場の有料化
	あおぞら児童会を対象を「小学3年生まで」から「小学校6年生まで」に
	通院にかかる医療費助成の対象を「小学3年生まで」から「小学校卒業まで」に拡充
	特定不妊治療費助成制度の創設
	阪口市長5選
8月	プレミアム付き商品券を販売(500円12枚綴りが5,000円)
10月	市内の空き家の情報を提供する空き家バンク制度がスタート
平成28年(2016)	
1月	子育て世代が住宅を建設または購入する際、固定資産税を軽減する制度がスタート
2月	国土地理院の計測方法の変更により、市面積が11.30㎢となる
3月	高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び高石市人口ビジョンを策定
4月	プラスチック製容器包装の分別回収を開始
	あおぞら児童会の平日の利用時間を「午後6時まで」から「午後7時まで」に、長期休業中の利用時間を「午前8時30分から」から「午前8時から」に
	私立加茂保育園が認定こども園化
	ふれあいゾーン複合センター駐車場を有料化
	空き家バンク対策補助制度がスタート
	熊本地震が発生、被災地への支援を実施
5月	南海本線・高師浜線(高石市)連続立体交差事業 下り線(関西空港・和歌山市方面行き)の高架化完成
7月	訪問型の病児保育をスタート
9月	高石市内在勤者が高石市に住宅を建設または購入する際、固定資産税を軽減する制度を創設(施行は29年1月1日から)
10月	10月24日を天女の日として日本記念日協会に登録
11月	市制施行50周年
	診療センターと連携した施設型の病児保育をスタート
12月	子育てウェルカムステーション「HUGOOD(ハグッド)」開設

高石市 思い出のアルバム

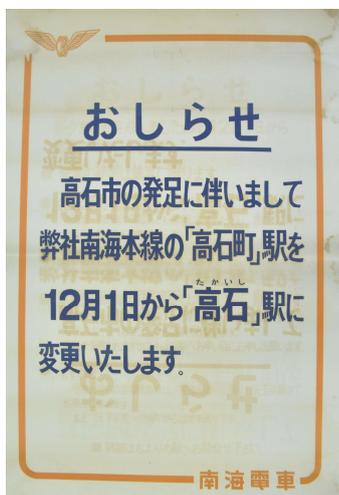
高石町駅から高石駅へ



▲高石町駅 (昭和41年11月20日撮影)



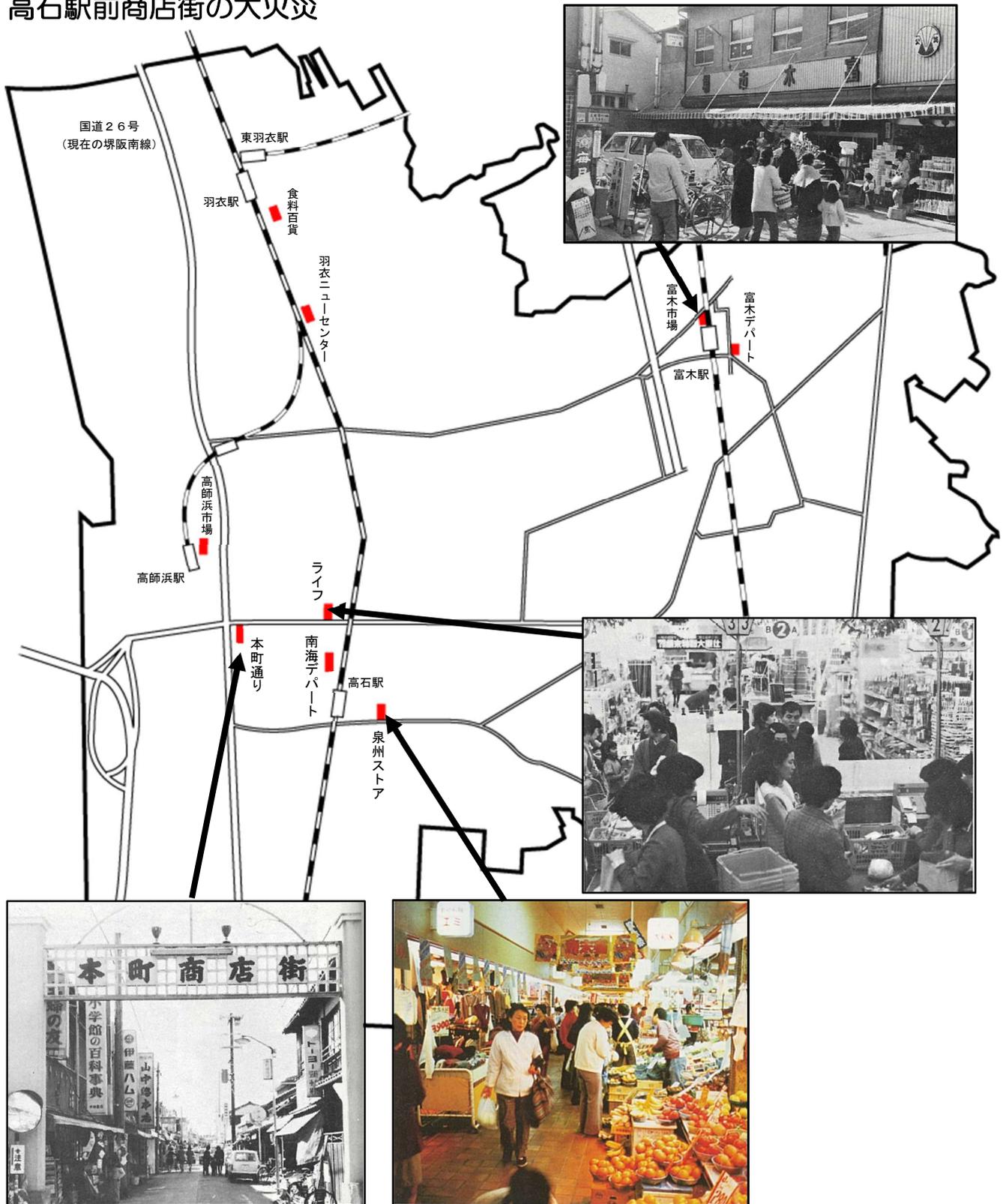
▲高石駅 (昭和42年1月15日撮影)



▲駅名の変更を知らせる南海電鉄のポスター

市制施行後、市は南海電鉄の「高石町」駅を「高石市」駅に改称することを同電鉄に要望した。昭和41年12月1日に改名することは決まったが、堺、泉大津、岸和田とどこも「市」をつけていないので「高石」としたいという電鉄側の主張により、駅名は「高石」となった。

高石駅前商店街の大火災



昭和40年頃は、現在のスーパーマーケットのような店舗はなく、小さな個人商店が集まる商店街などで買物をしていた。この住民に親しまれる商店街で、昭和42年6月14日未明、高石駅前の南海デパートを火元として、アパート、商店街、民家など延3,500㎡を焼き、8人の死傷者を出すという大火災が発生した。

この火災をきっかけに、貧弱な消防設備が問題となり、昭和45年に鳳消防署高石出張所を高石消防署に昇格させ、消防車や職員を増やすこととなった。

王子川交差点歩道橋



▲王子川交差点歩道橋

昭和43年3月15日、千代田5丁目の王子川交差点に市内初の歩道橋が完成し、渡り初めが行われた。同交差点は三叉路の変形交差点のため、当時は事故頻発地点の一つとなっていた。

浜寺交通遊園のデゴイチ



▲浜寺交通遊園に寄贈されたD51469

昭和46年10月に和歌山県田辺機関区所属のD51469が浜寺交通遊園に寄贈された。昭和15年1月に埼玉県大宮工場で誕生したこの蒸気機関車は、東北・鹿児島・紀勢各本線で貨物列車を牽引して活躍、昭和46年8月に任務を終えて廃車されたもの。この間、31年7か月の走行距離は202万余kmに達した。

この型式の蒸気機関車は、当時の国鉄では最も多く製造され、「デゴイチ」の愛称で親しまれており、現在でも交通遊園内に展示されている。

急速な都市化



▲羽衣駅前



▲羽衣駅前通り



▲高石駅



▲高石駅前



▲富木駅



▲東羽衣駅



▲高師浜駅



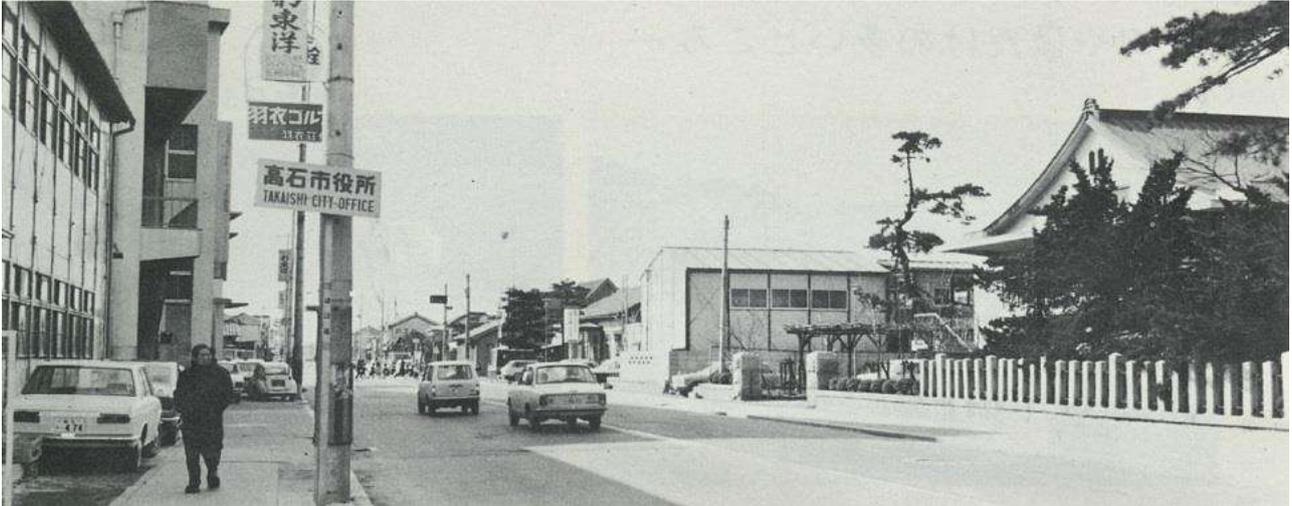
▲高架化工事中、移設された高師浜駅



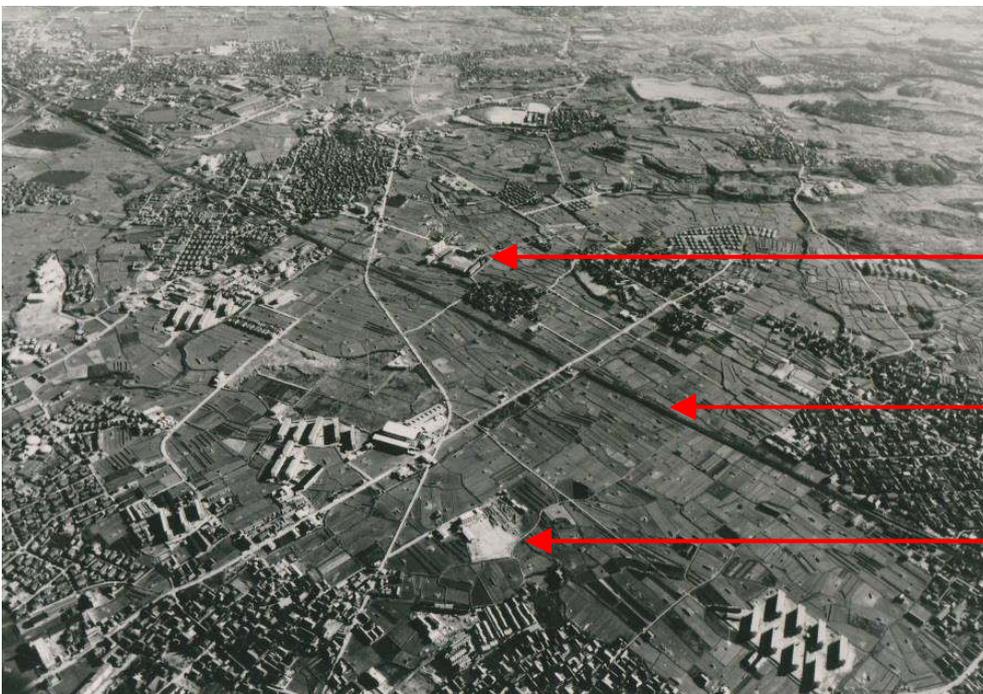
▲旧高石警察署（高師浜）



▲泉州ストア前（当時。現在の大園筋）

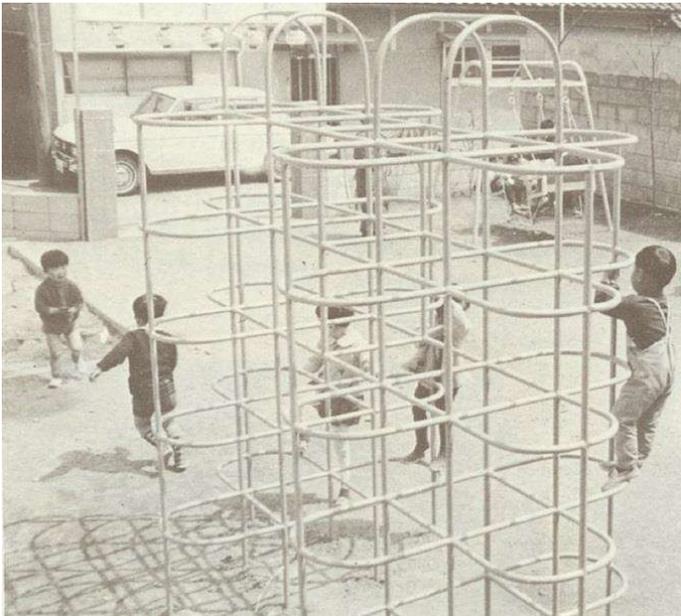


▲国道26号（当時。現在の府道204号堺阪南線）



▲昭和41年の高石南東方面

市制施行後間もない昭和40年代は、田畑や舗装のされていない道が多く残されていた。しかし泉北臨海工業地帯の造成に伴い住宅が急増し、都市としてふさわしい機能を整備するため、道路や上下水道の整備などが進められ、それらは次第に姿を消していった。



▲昭和43年4月に開設されたちびっこ広場

急速な都市化は子どもたちの遊び場に影響を与えた。住宅等の整備により、それまで空き地で遊んでいた子どもたちは行き場を失い、道路で遊ぶ状態となってしまったのである。

市は子どもたちを交通事故から守るため、「子どもたちの遊び場に空き地を無償提供してほしい」と市民に呼びかけた。そして昭和43年4月、七区自治会から同区青年会館前の空き地について第1号となる提供申し出があり、市が遊具を整備し、「ちびっこ広場」として開設されることとなった。これを皮切りに市内には多くのちびっこ広場が開設されることとなった。



▲高石駅東側の放置自転車



▲羽衣駅前の放置自転車

さらに、人口の増加は放置自転車の問題の深刻化も生むこととなった。

昭和45年頃から市内の各駅に自転車が放置され始め、住宅の増加により、その数はさらに増え、道路を占拠し、歩行者の通行に支障をきたすようになった。

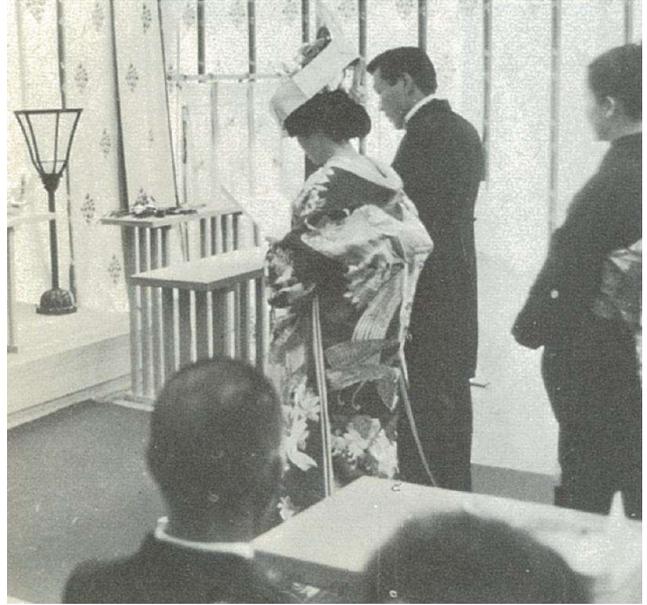
市は昭和49年に開設した高石駅自転車置場をはじめ、各駅に自転車置場や自転車駐車を整備していったが改善されず、「歩こう運動」の啓発、自転車指導整理員の配置、悪質な放置自転車の強制撤去など放置自転車の整理・指導を行ったが、その数は減らなかった。

根本的な解決策を調査・研究するため、昭和60年、自転車問題対策協議会が設置され、昭和63年4月より、自転車等の放置防止に関する条例が施行された。これにより、高石・羽衣・富木の3駅前は自転車等の放置禁止区域に指定され、区域内の放置自転車は撤去し、一定期間保管後、処分されることとなった。

市立の結婚式場 中央公民館北分館



▲中央公民館北分館



▲北分館 2 階の結婚式場

この頃には、結婚式を自宅ではなく、ホテルの式場などで行われることが多くなっており、費用をおさえ、結婚式ができるよう昭和46年6月にオープンした中央公民館北分館の2階には結婚式場が整備された。

しかし、利用者の減少等のため、平成元年に結婚式場は閉鎖となった。

オイルショックの影響

やむなく工事延期

(仮称) 高石学園 (精薄児通園施設)
(仮称) 東羽衣保育所

物価・資材の高騰が原因

昭和48年10月に起こったオイルショックにより、全国的に諸物価が急騰し、市民生活だけでなく、公共施設建設事業にも大きな影響を与えることとなった。

高石市では、資材不足、物価の高騰から当初の工事予算額を大きく上回ったことにより、松の実園（開設前は「(仮称) 高石学園」としていた）や東羽衣保育所の建設工事といった諸事業が延期されることとなった。

過ぎ去った消費は美德の時代 節約の時代へ

この頃には、結婚式を自宅ではなく、ホテルの式場などで行われることが多くなっており、費用をおさえ、結婚式ができるよう昭和46年6月にオープンした中央公民館北分館の2階には結婚式場が整備された。

しかし、利用者の減少等のため、平成元年に結婚式場は閉鎖となった。

▲広報たかいし（昭和49年2月号）の記事

市制施行10周年記念



▲ミス高石コンテストの様子



▲ミス高石パレード

昭和51年、市制施行10周年記念として、鴨公園での「ふるさと高石まつり」、市民会館でのテレビ番組「ただいま恋愛中」の公開録画や小中学校での映画大会など、さまざまなイベントが行われた。

その一環として、昭和51年10月16日、市民会館において商工会主催のミス高石コンテストが開催された。コンテストでは、出場者26名の中から第1次、第2次、第3次と審査が重ねられ、結果、ミス高石には羽衣に住む女性選ばれた。また同月31日には市民会館から新市庁舎までミス高石パレードが行われた。

羽衣駅前広場の整備



▲昭和53年の羽衣駅西側広場



▲昭和57年の花時計、枯山水整備

昭和53年7月、市と南海電鉄株式会社が共同で羽衣駅西側線の駅前通り180mのうち北半分90mの道路幅を幅員6mから14mに拡幅し、元タクシー乗り場付近に駅前広場を設置し、時計台を整備するとともに南半分の高師浜線ホームの西側に自転車置き場を設置した。

また同駅の東側広場には、昭和57年2月、白砂青松の名勝地のイメージを残し、美しく潤いのあるスペースとするため、花時計、枯山水が整備された。

市制施行20周年記念

市制施行20周年を記念して、公募によりキャッチフレーズが「発展へ、結ぼう市民の郷土愛」に決定。記念式典、大型フェリーのくるしま7をチャーターした「ふるさとの海めぐり」、NHKのラジオ公開録音、公開教室などさまざまな記念事業が昭和61年10月から2ヶ月に渡って実施された。

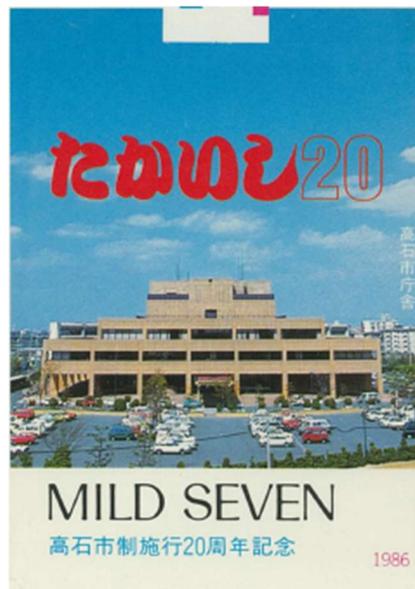
記念品として、7月に記念テレホンカードが製作され、申込制で販売された。さらに、10月5日から11月10日まで、市内のたばこ店で記念たばこの販売が行われた。



▲くるしま7



▲記念テレホンカード



▲記念たばこ（表）



▲記念たばこ（裏）

記念たばこはマイルドセブンでデザインは表が市庁舎、裏が歌川広重の錦絵（高師浜）となっている。

大雄寺の旧石碑を伽羅橋公園へ移設



▲大雄寺旧石碑

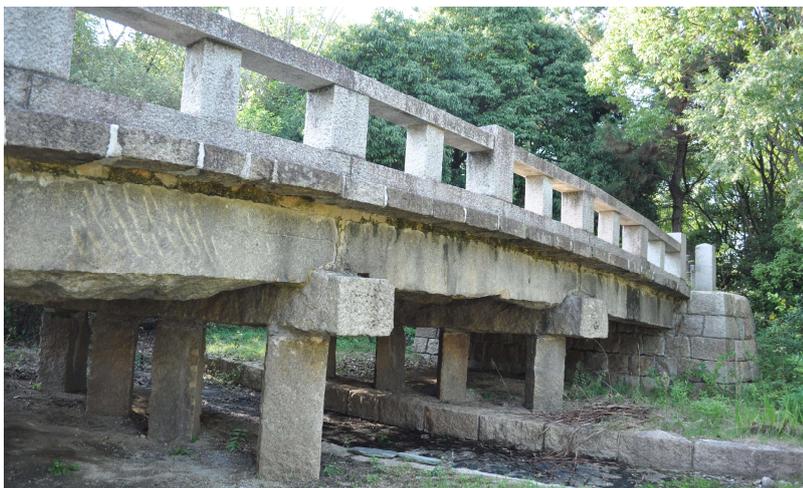
大雄寺旧石碑は、大正4年に当時の地元有志の高石温故会によって大雄寺※があったとされる高師浜2丁目付近に建立されたが、府道204号堺阪南線建設工事によって、伽羅橋公園南西の民有地に移設された。大雄寺の名が忘れられないようにするため、昭和63年3月5日、大雄寺記念碑保存世話人らによって伽羅橋公園に旧石碑が移された。

大雄寺

南北朝の時代に後村上天皇の命により、禅僧三光国師の勅号を賜った孤峰覚明が創建した禅宗寺院で、南朝の保護のもとに伽藍が整備されてゆき、南朝顧問となって重要な政治的拠点としての役割を担うようになった。しかし、南北朝統一後は衰退を余儀なくされた。

一休宗純が「タカセの大雄寺寄宿ノ時」と詠んだとして漢詩1編を自著『自戒集』に収めていることから高石にあったことは間違いない。具体的な場所についてははっきりしていないが、高石神社の北側に「大王寺」という小字が集中していたり『和泉国絵図』がその場所に大王寺を記すことから、紀州街道西側の高師浜2丁目あたりに伽藍を構えていたと推測される。

伽羅橋を高砂公園に移設



▲伽羅橋

伽羅橋は、江戸時代から明治時代初期まで、大阪と和歌山を結び交通・商業活動の中心的役割を果たしていた紀州街道の芦田川に架けられていた全長11.1m、幅4.5mの花崗岩製の石橋である。

この橋が浸水原因の一つとなっていたため、昭和63年3月に撤去し、高砂公園内に原型のとおり復元し、後世に残すこととなった。なお、平成20年に国の有形文化財に登録されている。

花博で「高石の日」を開催



▲「高石の日」の様子

平成2年4月1日から9月30日まで鶴見緑地で開催された、国際花と緑の博覧会において、8月25日、「人間都市・高石の日 行け行け21世紀フェスティバル」として、市民音楽団と羽衣学園バトン部によるオープニングセレモニーやコール浜木綿のコーラス、公民館定期講座生によるジャズダンスが披露された。

また、市の紹介コーナーでは、市の花「菊」を氷で固めた氷花柱を展示し、多くの入場者が足を止めていた。

セアカゴケグモが全国で初めて発見される



◀ セアカゴケグモのメス

メスは体長1cm程度（足を広げると3cm程度）で背中に赤い帯状の模様がある。オスは3mm程度。性格は大人しく攻撃性はないが、毒性が強く、咬まれると重症化する恐れがある。

平成7年11月、高石市内で神経毒を有するセアカゴケグモが全国で初めて発見され、テレビニュースにも大きく取り上げられた。

市は対策本部を設置し、注意を促す張り紙やビラ・リーフレットの配布をはじめ、生息調査、捕獲、薬剤散布による駆除を行った。大阪府も同年11月、大阪府セアカゴケグモ対策検討委員会を設置し、翌年12月には「今後のセアカゴケグモ対策の指針」がとりまとめられた。

市制施行30周年記念



▲市制施行30周年記念式典の様子

平成8年11月3日、記念式典が加茂小学校体育館で行われ、高石町長・初代市長の中山末吉氏、市長として長年高石の発展に尽力された浅野政雄氏、ベルリンオリンピック200m平泳ぎオリンピック新記録で優勝するなど輝かしい成績を収めるとともに水泳を通じて青少年健全育成に貢献された葉室鐵夫氏に名誉市民を顕彰した。また、市庁舎玄関前ではタイムカプセルが埋められ、市の木である松の記念植樹が行われた。

なみはや国体



▲夏季大会（漕艇競技）の様子



▲秋季大会（ハンドボール）の様子

大阪での開催は51年ぶり、単独では初めてとなる第52回国民体育大会「なみはや国体」の夏季大会が平成9年9月13日に開幕、4日間に渡り開催された。

高石市では、府立漕艇センターにおいて漕艇競技が行われ、全国から集まった選手たちが日頃の練習の成果を発揮し、白熱した戦いを繰り広げた。

秋季大会は10月25日から30日まで開催され、高石市では臨海スポーツセンターで10月26日から30日までハンドボール競技会が行われ、またデモンストレーションスポーツ行事として10月26日に高師浜運動場、鴨公園運動場、高師浜野球場でキックベースボールが開催された。

なお、なみはや国体秋季大会の開催日程の都合上、例年10月に開催される市民体育大会は、平成9年は4月に開催されることとなった。

川淵三郎氏が名誉市民に



▲名誉市民称号贈呈式の様子

川淵三郎氏は高石市出身で、高石小学校、高石中学校に通われた。その後、高校時代は全国高校サッカー選手権大会へ出場、大学時代は日本代表チームに選抜され、さらに昭和35年のローマオリンピックでは予選出場、昭和39年東京オリンピックではベスト8に進出するなど活躍された。現役引退後も日本代表チームなどの監督を務められ、昭和63年には日本サッカーリーグの最高責任者である総務主事に就任、平成3年には日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）を創設し初代チェアマンに就任されるなど、日本サッカー界の歴史に残る偉業をなされた。

平成14年12月に名誉市民称号の贈呈が決定し、翌年1月29日に高石市役所において贈呈式が行われ、寺田市長から名誉市民証や記念品が贈られた。また、川淵氏から市に「高い志・大きな夢を育む街 高石市に感謝を込めて」というメッセージ入のワールドカップ公式ボールが贈られた。

平成14年12月に名誉市民称号の贈呈が決定し、翌年1月29日に高石市役所において贈呈式が行われ、寺田市長から名誉市民証や記念品が贈られた。また、川淵氏から市に「高い志・大きな夢を育む街 高石市に感謝を込めて」というメッセージ入のワールドカップ公式ボールが贈られた。

浜寺公園の日露友好之像



▲俘虜収容所内の様子



▲日露友好之像

明治38年1月、高石村から助松の海岸に、日露戦争で俘虜となったロシア兵の収容所を設置することが、軍の第4師団司令部から村役場に通達された。収容所は5区のうち4区までが高石村に属し、高師浜・千代田から一部は泉大津市助松に及び沿岸部78, 496坪の畑地と山林が借り上げられた。

当時の高石村の人口3,500人余りに対し、俘虜の総数は28,000人以上と約8倍にもなった。俘虜見物に訪れる人も多く、また、収容所に入出入りする人や各地から入り込んだ商人が借りるために家や店が不足し、家賃が高騰した。食糧をはじめとした物資を運搬する車馬も多く、高石村は時ならぬ賑わいを見せた。

収容所内にはアーク灯が街路に引かれ、病院、礼拝堂、パン工場などが設けられ、日本語教室も開かれた。俘虜はハーグ条約に基づいて寛大な処遇を請け、労働作業はなく、所内での遊戯・体操・運動なども自由であった。

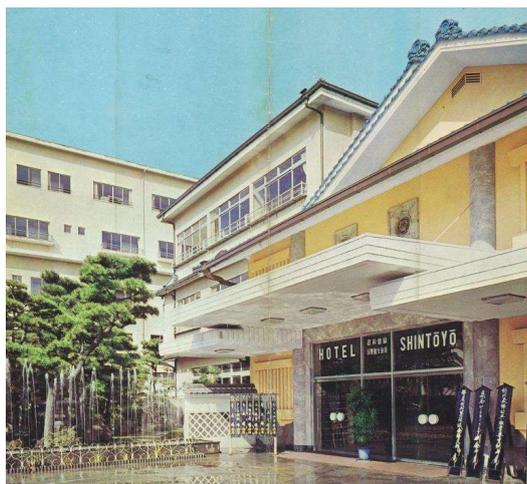
明治38年9月に戦争が終結すると、翌年の2月18日には俘虜の送還が終了し、収容所は同月21日に閉鎖された。また、収容中に亡くなった俘虜は泉大津の共同墓地に手厚く葬られた。

このような地域の歴史を伝え、日露友好親善の架け橋となるよう、平成14年5月11日にNPO泉州二十一世紀協議会により日露友好之像が浜寺公園に建立された。

市を代表する高級旅館 — 羽衣荘、新東洋、天兆閣



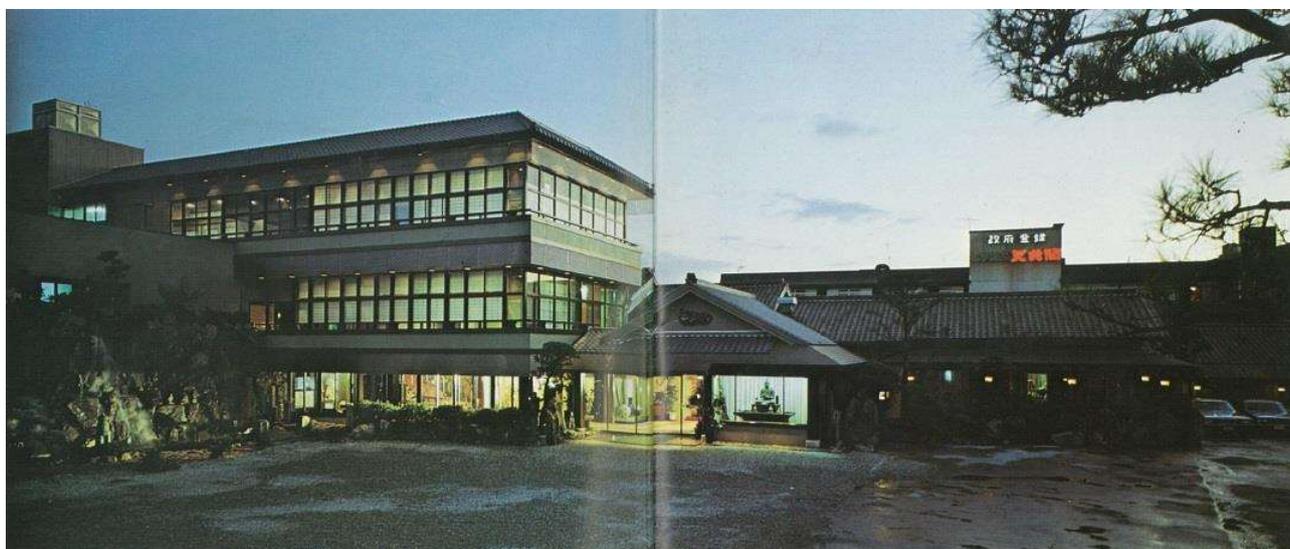
▲羽衣荘



▲新東洋 (パンフレットより)



▲新東洋を写した航空写真



▲天兆閣 (パンフレットより)



▲平成28年現在の地図に羽衣荘、新東洋、天兆閣の位置を記載

高石の羽衣・高師浜の海岸線は、古くより風光明媚な景勝地で、浜寺から羽衣の海岸沿いには明治6年に浜寺公園が開設された。また、明治30年には、南海鉄道株式会社が堺・泉佐野間の営業を開始して、大阪・堺と鉄道で結ばれることになり、堺の浜寺などとともに、都市部に近接する保養・行楽地、また住宅地としての礎が築かれた。

その後、高師浜から千代田にかけての沿岸部に設けられたロシア人俘虜収容所跡地が大正2年に地元の関係地主に返還・配分されると、大正7～8年には高師浜線が敷かれ、それに合わせて設立された南海土地建物株式会社が収容所跡地を広く買い上げて、高級住宅地とするに及んでいる。さらに、大正12年には、伽羅橋駅の東に、高師浜に浮き出た桃源郷とうたわれた洋風住宅地「キャラバシ園」も開かれている。

このような環境にある羽衣の地において、昭和の戦後、経済復興が進み、人々の暮らしにゆとりが生まれる中、新東洋や羽衣荘、天兆閣といった施設（政府登録国際観光旅館）が相次いで開業されたのは自然の成り行きとも言えよう。これらは近くに浜寺公園や海水浴場を控えた都市近郊のリゾート施設として機能し、設立当初は高師浜などへの海水浴客でにぎわった。

しかし、昭和36年代後半からの海岸部埋め立てにより海水浴場は閉鎖され、その後も宴会場・結婚式場として地元の人々を中心に利用されてきたが、宴会離れや新しいホテルの進出なども続いて、平成9年に羽衣荘が、平成11年に新東洋がその役割を終えることとなった。そして平成18年には天兆閣を引き継いだ羽衣迎賓館も営業を終えた。

多目的国際ターミナルが完成



▲多目的国際ターミナル供用開始式典

堺泉北港は、昭和44年3月に堺港と泉北港が統合されて特定重要港湾の指定を受けた。特に、高石市、泉大津市沖合の助松埠頭（泉北6区）においては、国際的な総合物流拠点としての整備が行われている。

平成8年から、国土交通省が進めていた「堺泉北港多目的国際ターミナル（助松埠頭九号岸壁）」が完成し、平成18年4月29日、供用開始式典が開催された。多目的国際ターミナルは、5万トン級の大型船舶が利用可能で、物流の安定化・効率化が図られている。平成26年においては、中古自動車の輸出が16万台を突破し、名古屋港、横浜港に次いで全国第3位となった。

市制施行40周年記念「第九 in 高石」



▲第九 in 高石

当時、市財政が危機的状況に陥っており、市はこれまでのような市制施行記念事業を行わなかったが、平成19年3月25日、市制施行40周年を記念して、アプラホールにて音楽に関わる市民が自主的に発案し、ベートーヴェンの交響曲第九番「歓喜の歌」を歌い上げた。

新しい福祉バス らくらく号の運行開始



▲平成18年8月に新しくなった「らくらく号」

平成6年4月から老人福祉センター利用者の利便を図るため、60歳以上の方を対象にした福祉バスが導入され、その後運行日数、便数、停留所の数や対象者が拡充された。

平成18年8月からは、新しく低床バスとなり、公募により「らくらく号」と愛称がつけられた。そして平成19年4月から、この「らくらく号」とふれあいゾーン複合センターの送迎バス「ふれあい号」の2台で市役所とふれあいゾーン複合センター発着として各公共施設等を巡回する運行が始まった。

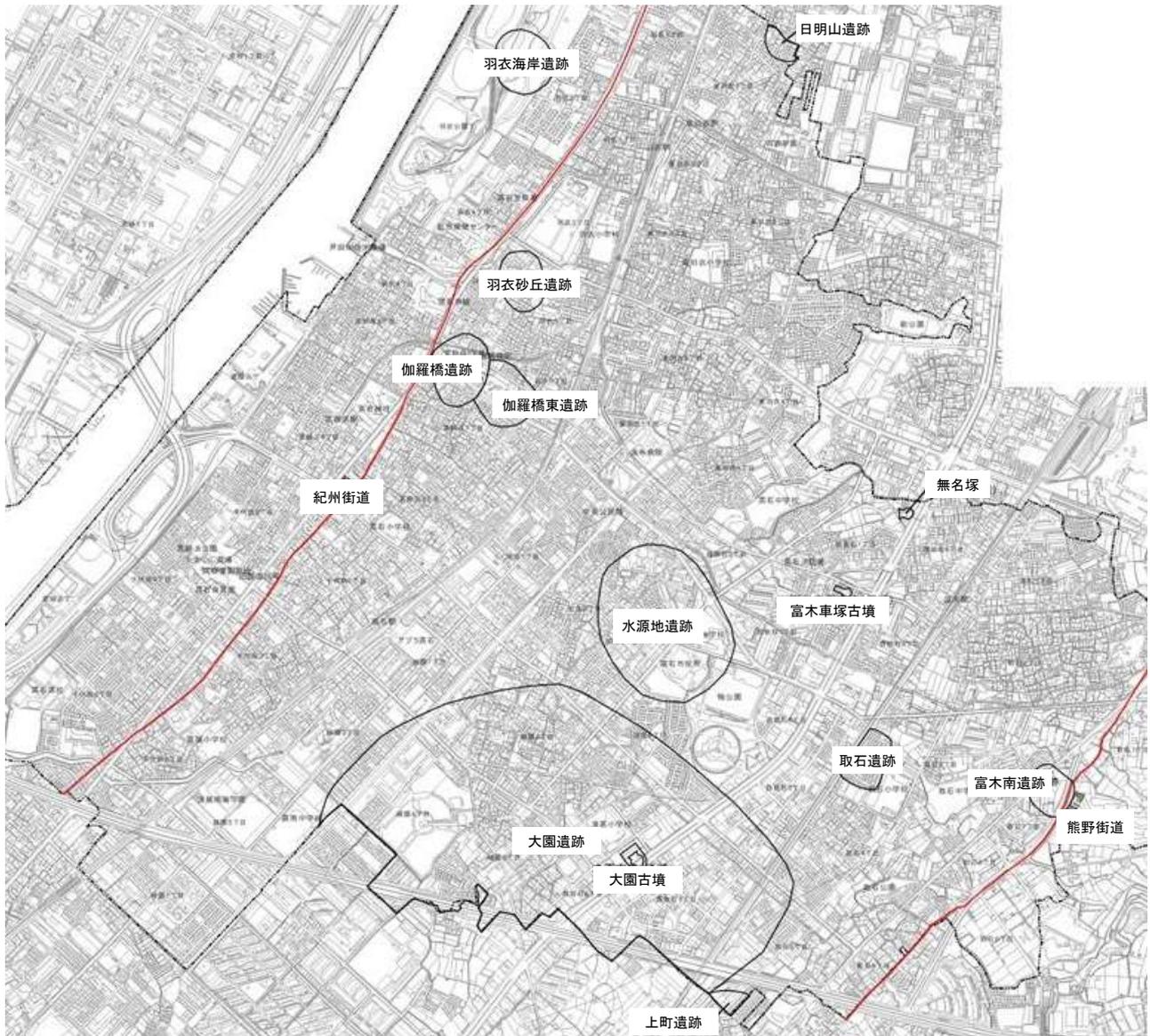
無料レンタサイクルの実施



▲高師浜駅の無料レンタサイクル

環境にやさしいエコ通勤・エコ通学を促進し、公共交通の活性化を図るため、平成24年9月より、高師浜線を利用される方を対象に高師浜駅と伽羅橋駅で無料レンタサイクルを実施した。また両駅の自転車駐車場の定期・一時料金の無料化も同時に開始した。

市内の遺跡調査



上図は高石市内の遺跡分布図である。その中で、大園遺跡は、昭和40年代後半から50年代にかけて、国道26号（第二阪和国道）・府道松原泉大津線の建設や土地区画整理事業などの公共事業に伴う大規模な発掘調査が行われ、その後も民間開発事業や個人住宅建設に伴う高石市教育委員会による地道な発掘調査が続けられている。そして、古墳時代の集落研究に欠かせない重要な遺跡として、また、旧石器時代から古代・中世・近世にいたる遺構をとどめる、東西1.4km・南北1.2kmという広範囲な複合遺跡として全国的にも知られるようになってきている。地域の歴史を紐解くうえでも欠かせない、高石を代表する遺跡である。

大園遺跡といえば、大園古墳の発見も見逃せない。大園古墳は国道26号（第二阪和国道）建設に伴う大阪府教育委員会による大園遺跡の範囲確認調査で発見された前方後円墳で、その後の大阪府と高石市による発掘調査で全貌が明らかになっている。墳丘が削平され、主体部はなくなっていたが、周濠からは、多くの埴輪が出土し、5世紀末～6世紀初頭の地域首長墓として位置づけられている。

富木車塚古墳は、この大園古墳に続く時期の前方後円墳である。昭和34年に高石市と大阪市立美術館が共同で調査を行い、後円部の横穴式石室をはじめ、7基の埋葬施設が見

つかり、武器・武具・馬具・装飾品など、多くの副葬品が出土した。

伽羅橋遺跡は、昭和30年に関西の中世遺跡の走りとなる調査が同志社大学考古学研究室などによって行われた。また、平成11年から16年にかけて府道高石北線建設に伴う広範囲の発掘調査では、平安時代後期から室町時代にかけての多くの遺構・遺物が発見されている。



▲大園遺跡発掘調査の一般公開（平成27年6月）



▲富木車塚古墳の調査

市制施行50周年記念



▲50周年記念ロゴマーク



▲市制施行50周年記念式典



▲天女サミット



▲宜野湾市はごろも小学校と高石市羽衣小学校の生徒がビデオ通話で交流



▲郷土史展の様子



キャッチフレーズは「輝く高石50年 魅力あふれる 飛躍都市」に、ロゴマークは市の木と花である松や菊、市と市民の心をつなぐイメージから上図のように、いずれも公募により決定された。また、市の記念事業として、平成28年10月24日からの1週間を50周年記念ウィークとして、天女サミット、郷土史展など様々なイベントが開催され、最終日である10月30日の記念式典では、名誉市民でJリーグ創設の立役者である川淵三郎氏とのトークセッション、中高生との語らいや市政功労者への表彰などが行われた。

さらに、この記念すべき節目を市民とともに盛り上げるため、市民主体で実施する記念事業に対し、補助を行う制度を創設し、多くの催しが行われた。

歴代市長、助役・副市長、収入役、市議会議長

市長

氏名	就任年月日	退任年月日
中山 末吉	昭和41年11月 1日	昭和42年 1月27日
浅野 政雄	昭和42年 2月28日	昭和46年 2月27日
浅野 政雄	昭和46年 2月28日	昭和50年 2月27日
浅野 政雄	昭和50年 2月28日	昭和54年 2月27日
浅野 政雄	昭和54年 2月28日	昭和58年 2月27日
浅野 政雄	昭和58年 2月28日	昭和62年 2月27日
浅野 政雄	昭和62年 2月28日	平成 3年 2月27日
寺田 為三	平成 3年 2月28日	平成 7年 2月27日
寺田 為三	平成 7年 2月28日	平成11年 2月27日
寺田 為三	平成11年 4月11日	平成15年 4月10日
阪口 伸六	平成15年 4月27日	平成16年12月22日
阪口 伸六	平成17年 2月 6日	平成19年 4月26日
阪口 伸六	平成19年 4月27日	平成23年 4月26日
阪口 伸六	平成23年 4月27日	平成27年 4月26日
阪口 伸六	平成27年 4月27日	平成31年 4月26日
阪口 伸六	平成31年 4月27日	

助役

氏名	就任年月日	退任年月日
藤井 新太郎	昭和41年11月 1日	昭和42年 1月27日
山西 与一郎	昭和42年 3月15日	昭和46年 3月14日
山西 与一郎	昭和46年 3月15日	昭和50年 3月14日
山西 与一郎	昭和50年 3月15日	昭和51年 4月16日
宮里 良和	昭和51年 4月17日	昭和54年 7月31日
寺田 為三	昭和51年 4月17日	昭和55年 4月16日
寺田 為三	昭和55年 4月17日	昭和59年 4月16日
寺田 為三	昭和59年 4月17日	昭和63年 4月16日
寺田 為三	昭和63年 4月17日	平成 2年 2月28日
浅野 彰	平成 2年 4月 9日	平成 6年 4月 8日
池中 義徳	平成 3年 6月 1日	平成 7年 5月31日
斎藤 弘晴	平成 6年 4月19日	平成10年 4月18日
池中 義徳	平成 7年 6月 1日	平成11年 5月31日
斎藤 弘晴	平成10年 4月19日	平成14年 4月18日
池中 義徳	平成11年 6月 1日	平成15年 4月27日
斎藤 弘晴	平成14年 4月19日	平成15年 4月27日

副市長

氏名	就任年月日	退任年月日
中村 昌也	平成20年 4月 1日	平成22年 3月31日
阿児 和成	平成22年 4月 1日	平成24年 3月31日
芝原 哲彦	平成24年 4月 1日	平成26年 3月31日
三浦 良平	平成24年 4月 1日	平成27年 5月31日
大西 秀紀	平成26年 4月 1日	平成28年 3月31日
植田 彰	平成27年 6月 1日	平成29年 6月30日
谷下 尊三	平成28年 4月 1日	平成30年 3月31日
石川 輝之	平成29年 7月 1日	
小林 眞一	平成30年 4月 1日	

収入役

氏名	就任年月日	退任年月日
北下 徳蔵	昭和41年11月 1日	昭和44年 1月 4日
江野 幸男	昭和44年 1月 5日	昭和48年 1月 4日
江野 幸男	昭和48年 1月 5日	昭和52年 1月 4日
江野 幸男	昭和52年 1月 5日	昭和56年 1月 4日
江野 幸男	昭和56年 1月 5日	昭和60年 1月 4日
浅野 彰	昭和60年 1月 5日	平成 2年 4月 8日
辻川 宏	平成 2年 4月 9日	平成 3年 5月31日
阪口 良夫	平成 3年 6月 1日	平成 7年 5月31日
阪口 良夫	平成 7年 6月 1日	平成11年 5月31日
堤 嘉巳	平成11年 6月 1日	平成15年 4月27日

※地方自治法の改正に伴い、平成19年度に助役制度及び収入役制度が見直され、助役は副市長に名称が変わり、収入役は特別職の職としては廃止となった。

市議会議員

氏名	就任年月日	退任年月日	氏名	就任年月日	退任年月日
北川 義 廣	昭和41年11月 1日	昭和42年 4月30日	松 本 定	平成 6年 5月18日	平成 7年 4月30日
北川 義 廣	昭和42年 5月10日	昭和44年 5月28日	辻 井 康 夫	平成 7年 5月24日	平成 8年 5月21日
中 尾 虎 一	昭和44年 5月28日	昭和46年 4月30日	新 妻 鎮 雄	平成 8年 5月21日	平成 9年 5月19日
嶋 田 喜一郎	昭和46年 5月13日	昭和47年 5月24日	松 本 定	平成 9年 5月19日	平成10年 5月19日
中 山 登	昭和47年 5月24日	昭和48年 5月22日	古 賀 秀 敏	平成10年 5月19日	平成11年 4月30日
辻 井 康 夫	昭和48年 5月22日	昭和49年 5月24日	中 島 一 男	平成11年 5月19日	平成12年 5月17日
西 口 喜久男	昭和49年 5月24日	昭和50年 4月30日	今 井 國 勝	平成12年 5月17日	平成13年 5月24日
辻 井 康 夫	昭和50年 5月22日	昭和51年 5月22日	金 田 美樹子	平成13年 5月24日	平成14年 5月17日
中 島 一 男	昭和51年 5月22日	昭和52年 5月18日	松 本 定	平成14年 5月17日	平成15年 4月30日
平 岡 只 義	昭和52年 5月18日	昭和53年 5月25日	権 野 功至郎	平成15年 5月22日	平成16年 5月20日
奥 田 英 文	昭和53年 5月25日	昭和54年 4月30日	新 妻 鎮 雄	平成16年 5月20日	平成17年 5月19日
北 島 正 春	昭和54年 5月22日	昭和55年 5月19日	古 賀 秀 敏	平成17年 5月19日	平成18年 5月17日
楠 本 清 治	昭和55年 5月19日	昭和56年 5月21日	中 山 均	平成18年 5月17日	平成19年 4月30日
辻 井 康 夫	昭和56年 5月21日	昭和57年 5月21日	松 本 定	平成19年 5月16日	平成20年 5月20日
北 島 正 春	昭和57年 5月21日	昭和58年 4月30日	奥 田 悦 雄	平成20年 5月20日	平成21年 5月21日
楠 本 清 治	昭和58年 5月23日	昭和59年 5月21日	北 山 保	平成21年 5月21日	平成22年 5月19日
奥 田 康 司	昭和59年 5月21日	昭和60年 5月21日	権 野 功至郎	平成22年 5月19日	平成23年 4月30日
橋 本 涉	昭和60年 5月21日	昭和61年 5月19日	松 本 定	平成23年 5月17日	平成24年 5月15日
楠 本 清 治	昭和61年 5月19日	昭和62年 4月30日	古 賀 秀 敏	平成24年 5月15日	平成25年 5月16日
井 上 洋 二	昭和62年 5月26日	昭和63年 5月20日	奥 田 悦 雄	平成25年 5月16日	平成26年 5月23日
今 井 國 勝	昭和63年 5月20日	平成 元年 5月17日	清 水 明 治	平成26年 5月23日	平成27年 4月30日
奥 田 康 司	平成 元年 5月17日	平成 2年 5月15日	佐 藤 一 夫	平成27年 5月18日	平成28年 5月13日
毛 利 和 義	平成 2年 5月15日	平成 3年 4月30日	森 博 英	平成28年 5月13日	平成29年 5月22日
植 木 幸太郎	平成 3年 5月29日	平成 4年 5月20日	畑 中 政 昭	平成29年 5月22日	平成30年 5月25日
金 刺 信 彦	平成 4年 5月20日	平成 5年 5月18日	古 賀 秀 敏	平成30年 5月25日	平成31年 4月30日
中 村 実	平成 5年 5月18日	平成 6年 5月18日	久保田 和 典	令和 元年 5月16日	

郷土たかいしの歴史図書のご紹介

「高石市史」

昭和51年度までの高石の歩みをまとめた歴史書。

第一巻 本文編（自然環境編、考古編、古代編、中世編、近世編、近現代編）

第二巻 資料編Ⅰ（考古編、古代編、中世編）

第三巻 資料編Ⅱ（近世編）

第四巻 資料編Ⅲ（近現代編）



「高石町五十年史表」

大正4年町制実施から昭和41年市制施行までの約半世紀にわたる町史年表。



「高石市十年史表」

町制の時代から引き続く、新生高石市の最初の市史研究史年表。



※これらの文献は高石市図書館に常置しており、ご活用いただければ幸いです。

本書の編集に携わられた
高石市郷土史研究委員

井上	良尚
宇田川	誠一
北口	茂基
佐野	謙太郎
丹農	秀知
名越	輝久
西居	元之
守行	幸司
喜谷	美宣

※順不同。敬称略

高石市のあゆみ

令和元年10月1日

■発行

高石市

■編集

高石市教育委員会

高石市郷土史研究委員



市制施行50周年記念事業

